



導かれるままに

二〇〇九年九月十四日から一人でローマ、アシジ、フィレンツェ、ミラノを巡礼した。その時の巡礼記。その②。

おばあちゃんの死

ローマに着いて、日本からの第一報は訃報だった。月曜日の午後日本を発ったが、その前日の主日のミサの前、わざわざ司祭館に來られて「神父さん、行ってらっしゃい。いい巡礼をして来てくださいね」と声をかけてくれたおばあちゃん。飛行機に乗っている間に帰天された。このおばあちゃんとは生前ひ

とつの約束をしていた。「神父さん、わたしの葬式をしてくださいね」といつも言っていた。わたしは「心配しないでいいですよ。どこにいても飛んでいきますから」と約束していた。どこにいても…ローマからとんぼ返りはできない。簡単に約束などをしてはいけない…。胸が痛かった。

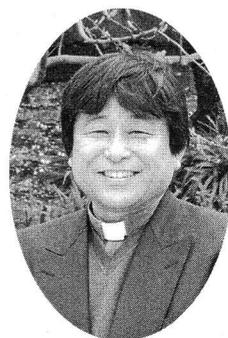
このおばあちゃんは家族で一人だけ信者。主日のミサは体調がよくないとき以外は欠かすことがなかった。いつもご主人が車で送ってくださっていた。ゆつくり走って一時間はかかる所から。ご主人は決して聖堂に入

ることはなかったが、葬儀でミサに初めて参加して以来、おばあちゃんがいつも座っていたその同じ場所で、今は主日のミサに毎週参加しておられる。

遺言で葬儀は教会でしてほしいこと、おばあちゃんを思い出すときはミサを依頼して祈ってほしいということを書き留めていた。

この巡礼初日の出来事は、わたしにひとつの大事なことを教えてくれた。

自分の望むことではなく、神が望むことを大切に。自分の計画ではなく、神の計画を優先すること。ほんとうに神を信



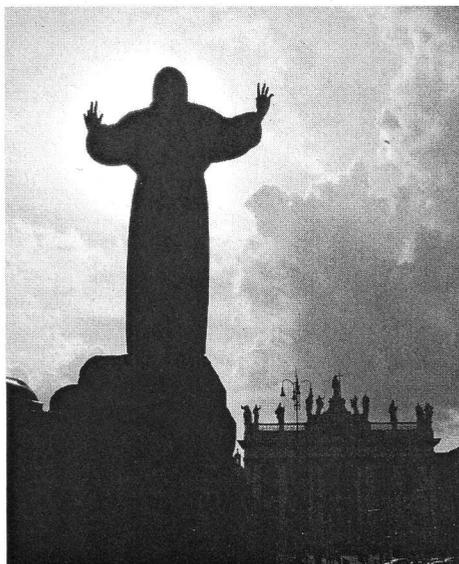
やまもと まこと
山元 眞 神父

じているのならば、信じる者として生きること。

宿を予約していただけで、こまかい計画は始めから立ててなかったのだが、このおばあちゃんの死は今回の巡礼の間、そして、これからの人生で忘れてはならないことを教えてくれた。

祈りながら歩く

祈りとは、神の想いを推し量ること。自分の望みではなく、神がわたしに望んでおられることに気づくこと。一人旅はいい。自由。神の導きにまかせることが出来る。ほとんど誰とも話す



ことなく黙々と歩いた。

バチカン人は人が多かったので、聖ペトロ大聖堂を背に、ラテラノ教会（聖ヨハネ教会）に向かって歩くことにした。歩き疲れたところで十二使徒教会に着いた。おばあちゃんの通夜の時間。日本時間の夜七時。ローマでは十二時。聖堂でしばらく祈った後、通夜が始まる十分前に、留守を頼んでいた隣の教会の神父に電話した。「よろしくお願いします。一緒に祈ります」。あとで聞いたのだが、十二使徒教会はフランシスコ会のローマ総本部の聖堂だという。軽く昼食を済ませ、歩き始め

た。あたりを見ると典礼用具の店がいくつも並んでいた。キラキラと光るカリスやバクルス（司教の牧杖）が異様にまぶしかった。ラテラノ教会に向かって歩いた。

この教会は、アシジの聖フランシスコが当時の教皇インノチエンチウス三世に謁見した場所。ちなみに今年（二〇〇九年）はフランシスコ会の創立八〇〇周年の年に当たる。また、一六二〇年十一月十五日に福者ペトロ・カスイ岐部が司祭に叙階された聖堂でもある。

ずっとおだやかな上り坂だった。汗がにじんできた。坂の先に

ラテラノ教会が見える。ふと横に目をやると、小さな教会があった。聖アントニオの教会のようだった。聖アントニオは探し物を見つける名人。彼に聞きながら聖堂に入った。「これからどんな道を歩んだらいい



のでしょうか」。聖堂に入ると神の愛の宣教師会（福者コルカタのテレサ・マザー・テレサの創立した修道会）のシスター二人とインド人の司祭が小声で語り合っていた。しばらくしてシスターたちが聖堂を出たので後をついていった。ラテラノ教会に向かって歩いていった。（ローマにて）

【教会ホームページ】

[http://www.](http://www.yukuhashi.catholic.ne.jp/)

[yukuhashi.catholic.ne.jp/](http://www.yukuhashi.catholic.ne.jp/)

【ブログ】

<http://micheleyam.exblog.jp>

＝善き隣人として奉仕する＝

葬儀の御用は弊社に

TEL 03-3702-0156 FAX 03-3702-0159

※御報参上・手続代行他。

〒158-0086 東京都世田谷区尾山台3-9-6

(株) 沼崎商会

サマリア式典部 沼崎 馨